

(仮称) 西部統合小学校建設計画説明会要旨

1. 江津市の小学校教育・小学校再編の考え方について

(スライドNo.2)

本市では、教育に関する目標や施策の根本となる方針を定めた「教育大綱」を策定していますが、その中で教育ビジョンを「ふるさと江津を愛し、豊かな心で、明日を創る人」と定めています。そして、「ふるさと江津で生涯学び続けようとする人」、「多様性を認め、自他を尊重する人」、「夢と志をもち、未来を切り開こうとする人」、この3つの目指す姿を設定して教育に取り組んでいます。

併せて、その基盤となる《学びの環境整備及び体制づくり》を進めることとし、その一環として、「安全・安心な教育環境の整備」、そして「学校再編の取り組み」を定め、これを目指しているところです。

(スライドNo.3)

平成23年3月に策定した「第2次学校整備再編基本計画」において、子どもたちにより良い教育環境を維持するために、「小学校は再編統合し、新統合校舎を建設すべき」と結論付け、この西部地区は、川波小学校と津宮小学校、そして跡市小学校の3校を集約することを目標とすることになりました。なお、跡市小学校については、統合小学校建設に先行して、平成28年4月に統合を完了しています。

統合整備の基本方針としては、「教育活動をより充実させる」、「すべての利用者にとって安全安心な学校」、「ユニバーサルデザインの考え方」などを定め、今後具体的に計画していくこととしています。

2. 西部地区の統合小学校の経緯について

(スライドNo.4)

平成23年3月に、市議会に「第2次学校整備再編基本計画」を説明することでスタートし、川波・津宮両小学校のPTA、そして、波子・敬川・二宮・都野津・有福温泉の各地域住民、さらには就学前児童保護者の方々に対しても説明会を開催し、ご意見をいただきました。

その間、津宮小学校PTA会長から統合受け入れの報告書をいただき、平成25年2月には、川波小学校PTA、波子・敬川・有福温泉地区代表者から「統合やむなし」との回答書をいただいたところです。

跡市小学校についても、平成27年3月に統合の合意をいただき、平成28

年3月に、統合小学校建設に先行して津宮小学校と統合しています。

その後、新校舎の建設を進めるところでしたが、平成28年の熊本地震により、庁舎改修整備方針が再検討され、「新庁舎建設」を優先することとなったため、西部統合小学校の建設は延期となりました。

しかし、この度、新庁舎が完成したことから、改めて西部統合小学校の建設を進めることとしたところです。

3. 津宮小学校敷地への建設決定理由について

(スライドNo.5)

平成23年当時の最初の説明では、建設場所については示しておりませんが、青陵中学校の近隣と津宮小学校の敷地が有力な候補地として検討されていました。

その後、説明会を重ねる中で、青陵中学校付近を有力な建設候補地の一つとして言及したことから、青陵中付近に建設することが既定路線として認識されていました。

しかし、今回、当初の予定から相当年数が経過しており、建築費単価や周辺の交通状況、学校に求められる諸条件などが変わってきていることから、建設候補地として津宮小学校のA案、青陵中学校周辺のB案を比較検討する調査を行いました。今回、その調査結果と、その他の様々な状況を総合的に勘案して、津宮小学校の敷地に建設するという方針に決定したものです。

(スライドNo.6)

建設地を津宮小学校敷地に決定して理由の一つは、ゆとりを持った空間形成が可能となることです。校舎等の建築可能面積が、津宮小学校の方が青陵中学校の約7千㎡と比べ約2倍の1万4千㎡確保できます。青陵中学校の方は、コンパクトにまとめる必要があり、校舎も4階建てにすることになり、また、テニスコートや野球場も別に用意する必要があり、プールも遠い場所に建設せざるを得ない状況となります。

次に、通学路の問題です。現状でも青陵中学校への通学路は、大浜橋や市道赤羽根幹線は、通学路安全点検において以前から指摘を受けています。統合時には、青陵中学生約200人、小学生約330人が通学時間帯に集中し、自家用車、徒歩、スクールバス、通勤車両が混在する状態となり、今以上に交通安全上問題になると思われます。

これを解消するためには道路の拡幅が必要となりますが、多額の経費と長い期間がかかることが予想されます。

この2つの大きな理由に加え、経費の問題や代替施設の確保など総合的に判断し、津宮小学校敷地内に建設する方針に決定したところです。

4. 津宮小学校敷地利用での概略計画について

(スライドNo.7)

現在のグラウンドに校舎等を建築し、現在の校舎の位置をグラウンドとします。この図にある校舎の形や配置などは仮の設定で、今後、基本設計、実施設計を行い最終的に決定します。

(スライドNo.8)

統合小学校の建設に当たっては、以下の7つの基本方針に沿って整備します。

- ①個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、児童の主体的な学びを支援できるよう、「教育活動をより充実させるための学校施設」とすること。
- ②児童が日々学び生活する学校であり、今後、地域の方々の積極的な関与も進めていくことから、「全ての利用者にとって安全・安心な学校施設」とすること。
- ③バリアフリー化とインクルーシブ教育を進めるため、「ユニバーサルデザイン」の考え方を取り入れること。
- ④今後取り込まれるコミュニティスクールの拠点として、また、地域の避難所としての機能も必要となることから、「地域拠点としての学校施設」とすること。
- ⑤時代に即した教育活動に対応できるよう、「将来の変化に対応できるフレキシブルな施設計画」とすること。
- ⑥今後さらに進化するICTに対応するため、「ICT化 利活用のための基盤整備」を行うこと。
- ⑦将来にわたる財政負担を考慮し、「適正な施設規模等の考え方」により建設すること。

(スライドNo.9)

現時点で考えているスケジュールは、令和5年度に建設場所を決定し、令和6年度から建設に着手します。

令和6年度は土木測量設計と建築基本設計を行い、令和7年度から土木工事と建築実施設計に入り、校舎等の建設は令和8年度からの予定としています。

計画では、令和9年度末に校舎が完成し、令和10年度当初には新校舎となる予定です。この時点で津宮小学校の児童は新校舎に引越することになります。

その後、令和10年度に旧校舎の解体、続いて令和11年度にグラウンド等の整備を行い、最終的な完成は令和11年度末と考えています。

課題として工事期間中はグラウンドが使用できなくなり、この間は児童・教職員に大変なご不便をかけることになります。体育館は新旧どちらかがありますので、体育の授業はできますが、運動会などのイベントについては、隣接す

る江津高校のグラウンドを使用する予定です。

(スライドNo.10)

この統合は、対等統合となりますので、新しい校名、校歌、校章、制服などを検討する必要があります。令和8年度頃から検討を始める予定です。

開校時期ですが、全ての施設の完成予定は令和11年度末となりますが、どの時点で川波小学校と統合するかは、保護者の方々との協議により決定します。

児童の通学対応、主にスクールバスの利用については、統合時の児童の分布状況により左右されます。スクールバスを利用できる児童は、国の基準では4km以上とされていますが、本市においては、基本的には3kmキロメートル以上としています。ただし、居住地や交通事情等により、3km未満でも柔軟に対応しています。令和8年度頃から検討を始めます。

廃校後の川波小学校校舎等については基本的には解体する考えです。

以上、主なものを取り上げましたが、このほかにたくさんの事項がでてくることが予想されます。統合を承諾していただいた当時の条件であった「保護者の負担軽減」を基本として、解決にあたりたいと考えています。